
-M-
F4 COMPANY's
ADULTONLY BOOK
VI
F4 COMPANY


[M]


F4

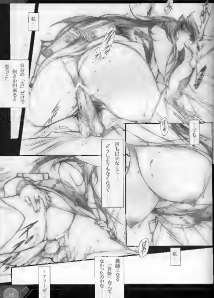

慣れない船上での戦い――。
不意をつかれ、賊に捕縛されたアティ――。
そして、洋上に逃げ場など無く、助けなど来るはずも無かった――。
F4 COMPANY



そしてアリーゼ…
彼女等の身代わりとなった
アティは――
自らの躰を賊の前に―
ただひたすら、羞恥に
耐える他無かった――
ENEMY
F2 COMPANY


他の船客も
おそらくは見ているであろう
甲板上での「行為」――
目隠しをされ
視界を奪われた事が唯一、
彼女にとっての救いであった――
やめ　てッ
あふッ！
そんな―　強く―


私が……
私が余計な……
……あの時……
手出しさえしてなければ……ッ
皆……危険な目に――
遭わずに済んでいたかも
知れないのに……
それは
……駄目……！
!!
いやッ……！
RA COMPANY


私…
自分の「力」だけで何とか出来ると思ってた
はっ
…でも…
何も出来なくて…どうしようもなくなって……
はっ
私…
教師になる「資格」なんて…なかったのかな……
…アリーゼ…
F4 COMPANY


アリーゼ……
ごめんなさい
でも
あなたには絶対に
手を出させないから――
「守る」って
約束したから――
だから――


せめて それだけは――
お願い……
あなたが「先生」って 呼んでくれるなら……
私の… あなたの「先生」としての 最初で… そして最後の仕事――
んあッ…
…くッ…は…ぁ
…アリーゼ…
「先生」って 呼んでくれて… ありがとう――


ーイ
膣内で大きくなってッ
駄目ーーッ出さないーで
今出されたらー私ーッ
ーッ！


……ああ……
もっと…もっと強い「力」…が私にあったら　よかったのに――
F4 COMPANY


もっと……
もっと強い「力」を——
お願い——
END


-M-
F4 COMPANY's
ADULT ONLY BOOK
VI